

宮一商店街サミット防犯委員会（埼玉県）

活動地域

宮一商店街サミット防犯委員会のリーダーとして発表をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。まず、始めに、私たちの町、埼玉県さいたま市大宮区の紹介をさせていただきます。

さいたま市大宮区は、埼玉県南部に位置するさいたま市にある10区の一つです。人口は、昨年の統計で約11万人です。主な特徴としましては、中山道の宿場町の一つである大宮宿が置かれた宿場町で

す。また、年末年始の初詣でにぎわう氷川神社があります。そして、県内最大規模ともいえる繁華街があり、商業都市として発展しています。新幹線の停車駅でもあるJR大宮駅があり、この大宮駅東口駅前の商店街および宮町1丁目地区が、私たちの活動地域です。団体名にあります「宮一」とは、この宮町1丁目という意味になります。

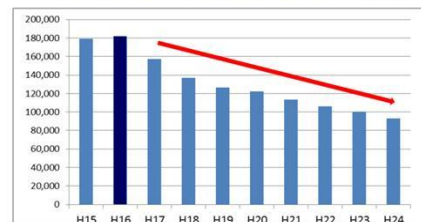


団体の概要

埼玉県内の過去10年間の犯罪発生件数をグラフにしました。平成16年をピークに減少傾向で、昨年平成24年は9万3,157件でした。私たちの町、大宮区の場合も県内同様、平成16年をピークに年々減少しています。活動を始めたのが平成15年4月ですから、減少の要因として私たちの防犯活動が一役買っていると自負しています。

平成13年から14年にかけて、大宮駅前における違法エステ等の不法な営業活動や、それに伴う客引きが横行しました。それが私たちの商店街活動や通勤・通学者、買い物客の通行に支障を来すまでになりました。この違法エステの廃業を目指しまして、まちの発展と各商店街の発展化、活性化のため、また「自分たちのまちは自分たちで守ろう」という決意から、平成15年4月、大宮駅東口商店街を中心として、商店会員による「宮一商店街サミット防犯委員会」、通称「宮一サミット」が誕生しました。

埼玉県内の犯罪発生件数の推移



宮一サミット結成の経緯①

- 平成13年から14年にかけて、大宮駅周辺における違法エステ等の不法な営業活動や客引きが横行

- 商店街活動
- 通勤、通学者
- 買い物客

通行に支障をきたすまでに！

宮一サミットは、宮町1丁目自治会、大宮銀座通り商店街協同組合、一番街商店街、住吉通り商店街の4団体で結成されました。防犯委員会、環境美化委員会、IT委員会から構成され、防犯委員会の平成25年5月における参加会員は、男性44名、女性10名の総勢54名です。20歳代、30歳代は7人おります。また、大宮区役所総務課にご協力いただき、区長ならびに総務課の方にも参加していただいております。今、着用しているのがユニフォームで、基本的には、夜間にパトロールしているものですから、こういったライト付きのベストを着用しています。

宮一サミットの活動①

≪構成≫

- ・ 宮一自治会、大宮銀座商店街協同組合等の団体～54名
- ・ 性別
男性～44名、女性～10名
- ・ 年齢
20歳代～3名、30歳代～4名、40歳代～10名、50歳～7名、60歳以上～30名

活動の概要

現在の活動の内容ですが、毎週木曜日または金曜日の午後8時から約1時間、大宮警察署にご協力いただきまして、可能な範囲で一緒にパトロールを実施しています。平成15年から実施している年末の特別警戒においては、埼玉県知事、さいたま市長、警察本部長と一緒にパトロールを行っています。

活動の基本方針のひとつは、割れ窓理論に基づいて活動するということです。アメリカ・ニューヨークのジュリアーニ市長が唱えた「割れた窓の多い建物の周りには、犯罪が多く発生する」「そして、割れた窓を修理してきれいになると犯罪が減る」という理論です。私たちは3つのことを実践しています。

まず地域の環境美化活動です。パトロールをしながら路上のゴミを収集しています。次に放置自転車対策活動です。駅前には自転車の放置が目立ちます。パトロールをしている際に、長時間放置されていると思われる自転車に独自で作成した警告書を付け、自転車置場を利用するように注意を促しています。最後に路上喫煙禁止区域の啓発活動です。私たちの活動エリアは全域が喫煙禁止区域となっているため、喫煙者に対する指導と注意チラシを配布しています。

宮一サミットの活動②

≪内容≫

- ・ 月平均4日
- ・ 毎週木曜日または、金曜日の午後8時から約1時間
- ・ 警察官とともに活動区域内を徒歩パトロール
- ・ 平成15年～
年末に実施している特別警戒において、県知事、さいたま市長、警察本部長とともにパトロールに参加

宮一サミットの活動③

≪基本方針≫

- 1 割れ窓理論に基づく活動
 - (1) 地域内の環境美化活動～路上ゴミの収集
 - (2) 放置自転車対策活動
～ 駐車場への誘導と整理整頓
 - (3) 路上喫煙禁止の啓発活動
～ 喫煙禁止エリアにおける喫煙者に対する指導及び注意喚起のチラシを配布

宮一サミットの活動④

さいたま市内の大学との共同事業

- (1) 大学との共同研究
- (2) 発表会の実施(年2回)



基本方針のもうひとつは、地元大学との共同事業です。芝浦工業大学システム学部と「対象地区内の活性化と回遊性の向上」を目的とした冬季イルミネーション事業を実施しています。視覚的にも心理的にも、明るくすることなど、地域の安全・安心に与える影響の研究に取り組んでいます。必要に応じてアンケート等を実施し、年に2回発表会を開いています。発表会の参加者からは、「学生のアイデアに触れることでパトロール開始時と比べて意識が大きく変わった」などと好評です。

写真が共同制作したイルミネーションです。店舗前に飾ったイルミネーションで、青を基調に美しく点灯していました。店舗名を筒の部分に表示して昼間は広告として利用しました。右側は陸橋の側道横に作成されたイルミネーションです。

大宮区のイメージカラーであるオレンジを使っています。

下の写真は実際の活動の様子です。普段実施しているパトロールでは、商店街を回り、地域の方に安心・安全なまちづくりを目指していることをお知らせしています。左側の写真は、大宮警察署の方と一緒に活動している様子です。

続いての写真は、環境美化活動として実施しているゴミ拾いの様子です。ゴミ袋を持参し、パトロールをしながら、目に付いたゴミを収集して歩いています。右側の写真は、駅前の放置自転車に注意を促す警告書を取り付けているところです。

共同制作したイルミネーション



活動の様子



大宮警察署員とともにパトロールを実施している様子

活動の様子



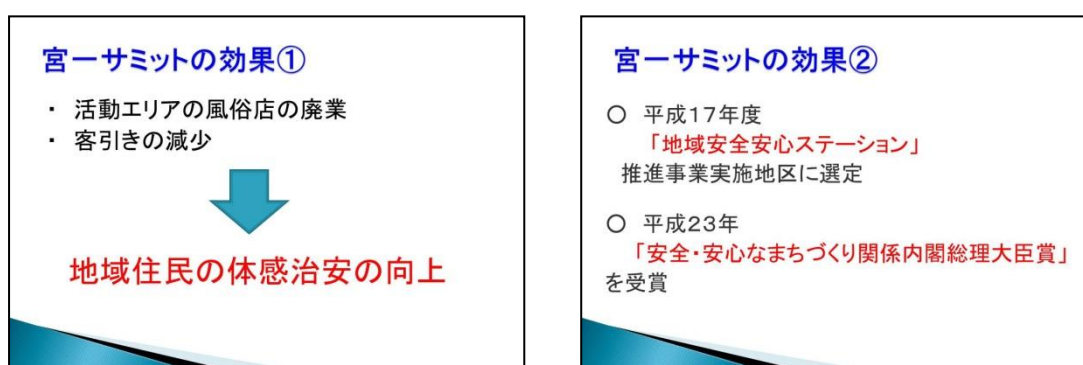
環境浄化活動を交えて、パトロールを実施

放置自転車に警告書を取り付けている様子

活動の効果と今後の課題

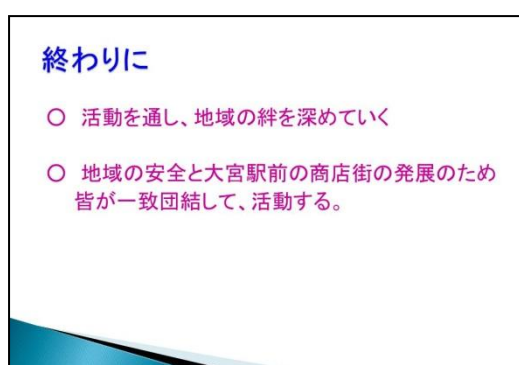
これまでの活動の効果として、当初の目的であった風俗店の廃業や客引きの減少を達成できました。地元商店街の会員として、最も大きく実感できる治安向上です。また、ゴミ拾いをしている姿を見せることにより、ポイ捨てが減り、商店街やまちがとてもきれいになりました。放置自転車に関しても、警告書の取付けだけでなく、行政や地域住民と協力し、撤去や駐輪場を増やすことで放置自転車が減少しました。

このほか、平成17年度「地域安全安心ステーション推進事業実施地区」に選定されたことで、埼玉県を代表した自主防犯活動団体であると、会員は認識を新たにして活動を続けています。さらに平成23年には、「安全・安心なまちづくり関係功労者内閣総理大臣賞」



を受賞しました。平成23年10月11日、内閣総理大臣官邸で、当時の首相の野田総理から、直接表彰を受けました。このことは会員全員の大きな誇りでもあり、励みにもなっています。表彰の際には、私も随伴しまして、人生で最初で最後になると思われる官邸の中に入るという体験をしました。「首相が入場します」という言葉の後に首相が入場してきた際、会場の空気がぴーンと張りつめたことがとても印象に残っています。

今後の課題です。どの団体も構成員の高齢化の問題に直面していると思います。私たち宮一サミットでは、防犯パトロール等の活動に賛同していただける会員外の店舗、団体の



協力をいただいています。こうした団体などから、若手メンバーが加わったことで、活動がより活性化しています。会員の枠にとらわれず、地域の賛同者を増やし、活動を継続していくことを目指すことにしています。

今後の活動については、宮一サミットの活動理念でもある、活動を通して地域の横のつながり絆を深めていくこと、地域の安全と大

宮駅前の商店街の発展ため皆が一致団結して活動すること、この2点を実践して、さらに、大きな活動につなげていきたいと思っています。

最後になりますが、本来であれば、この壇上で発表しているのは、宮一サミットの初代リーダーを務めていただきました村上充廣さんの予定でした。しかし、残念ながら、この4月、病に倒れ、帰らぬ人となりました。村上さんには、宮一サミットの立ち上げの前からご尽力いただきまして、結成してからの10年間、常に私たちの先頭に立ち、力強く、この活動を率いていただきました。村上さんが常々おっしゃっていたのが、継続することの大切さでした。活動当初は「邪魔だ」と言われることもありましたが、休まず続けて活動を見せることで、少しずつ認知され、「ご苦労さま」と声を掛けていただけるようになりました。これも、村上さんが継続してきたことが実を結んだ証しだと思います。私たちは、この遺志を引き継ぎ、これからも継続することを心に刻み、活動を続けていきたいと思えます。以上をもちまして、今回の発表を終わります。最後まで、ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

●質問 大学生と合同で活動、研究しておられるということでしたが、そのことで変化とか、活性されたとか、そういうことは何かありますか？

○回答 大学のシステム学部の研究室に、まちの活性化をテーマにして年間を通して協力してもらっています。学生さんの意見や発想から、これまで地域に住んでいる人間には気付かなかったことを再認識させられます。それらは店舗の改善などに役立っています。

またイルミネーションを付けたことによって、これは12月のクリスマスの時期から2月にかけて冬の間実施しますが、そのおかげで年末商戦にも活気が戻ってきました。明るくなったので防犯性の向上にもつながったと思っています。